

中学校「チャレンジテスト」の廃止・撤回と、
小学校「すくすくテスト」導入しないことを求める要請書

大阪府教育委員会は、2020年度中学3年生「チャレンジテスト」を中止しましたが、中学1・2年生は、2021年1月に予定通り実施するとしています。また、中止された3年生チャレンジテストの代わりに、現3年生が2年生の時のテスト結果を2021年度高校入試の調査書評定に利用するとしています。

小学校5、6年生に対しても2021年度「すくすくテスト」を全国学力学習状況調査の日に実施するとしています。これにより引き起こされる問題は以下の通りです。

(1)「チャレンジテスト」は各中学校・各市町村の格差を制度的に作り出し、学校間競争を煽ります。

2020年度から全学年がいわゆる「団体戦」方式となり、文科省が過去に指摘した問題「生徒の所属する学校により評定が左右される」状態そのものになります。「チャレンジテスト」平均の高い学校は高い評定が多く、低い学校は低い評定が多く出る、格差を作り出し学校間競争を煽る制度です。つまり、頑張っても、通っている中学校によって高い評定をもらいにくくなります。また、テストすら実施していない音楽、美術、保健体育、技術・家庭にも影響します。このように、高校入試がきわめて不公平になります。

また、2020年度は新型コロナウイルスによる休校の影響で、学校行事の削減等が行われています。そんな中で、実施日の1月13日にむけて子どもたちを追いたて、今以上に負担をかけることとなります。

さらに、2020年度の中学3年生は、2年生のチャレンジテスト結果を用いて調査書評定平均が決定されます。3年時の生徒の頑張りは反映されません。極めて問題の大きい方針で、公平性も担保されません。

(2)「すくすくテスト」は小学校教育を大きくゆがめます。

小学校「すくすくテスト」は、学校対抗のテスト競争を煽ります。テスト対策中心の学校となり、子どもたちを小学校から過度の競争に駆り立て、基礎的な学力を養う場、人間形成の場という、本来あるべき学校教育の姿が大きくゆがめられます。また、実施要領では、家庭での指導内容まで示されており、家庭内に踏み込むものとなっています。

以上の趣旨を踏まえて、貴委員会に以下の事項を強く要請します。

記

1. 中学校「チャレンジテスト」を廃止・撤回すること
2. 2020年度中学1・2年生チャレンジテストを中止すること
3. 2021年度高校入試の府内統一ルールを撤回すること
4. チャレンジテスト結果の内申書評定への反映をやめ、各中学校にゆだねること
5. 小学校「すくすくテスト」を導入しないこと

2020年 月 日

以上

氏 名	住 所

STOP！おしつけテスト

一緒に求めていきませんか？「チャレンジテスト」「すくすくテスト」の廃止・撤回を！

◆中学生「チャレンジテスト」はやめて！

中学生「チャレンジテスト」の結果が、高校入試の内申書に使われています。都道府県がおこなう調査結果を、入試に使っているのは大阪だけです。

やめてください
Please stop



- ① 2020年度は、特に子どもたちに大きな負担がかかっています。今求められるのはテストではなく、子どもたちが落ち着いて学べるような環境整備ではないでしょうか。
- ② コロナの影響で学校の行事はなくなったのに、「チャレンジテスト」だけは実施されます。「標準授業時数の確保」と言いながら、授業時数を奪います。
- ③ 2020年度の3年生の成績は、昨年度のテストで決められてしまいます。
- ④ 「チャレンジテスト」を行わない音楽・美術・技術・家庭・体育の成績も、「チャレンジテスト」の結果に左右されます。
- ⑤ 直前の授業が、テスト対策に変えられてしまいます。

◆小学生「すくすくテスト」を導入しないで！

2021年5月から、小学校「すくすくテスト」が5・6年生で実施されようとしています(毎年4月を予定)。

- ① 法的に教育委員会の仕事は、教育条件整備です。テストを実施し、指導できるのは「教職員」だけです。つまり、教育委員会は法的に「すくすくテスト」を行うことができません。
- ② 「テスト」で測れるのは、子どもの力の一部でしかありません。しかし、「テスト」結果に縛られ、「テスト」対策など、学校での授業にまで影響します。
- ③ 「テスト」結果により学校間や地域間の序列化を生み、競争が作り出されます。
- ④ 3月の授業や春休みの宿題が「テスト対策」になりかねません。これでは小学校から中学校まで「テスト漬け」です。
- ⑤ 実施要領ではこのテスト結果への対応を家庭にも求めています。行政は家庭内に介入すべきではありません。
- ⑥ 大阪府では、小学校での「校内暴力行為件数」や「不登校児童数」が年々増えています。テストや競争で子どもたちを追いたてれば、ますます深刻な状況になることが懸念されます。

